

自然農のある暮らしとその生き方を求めて

本当に大切なものを大切にしたい

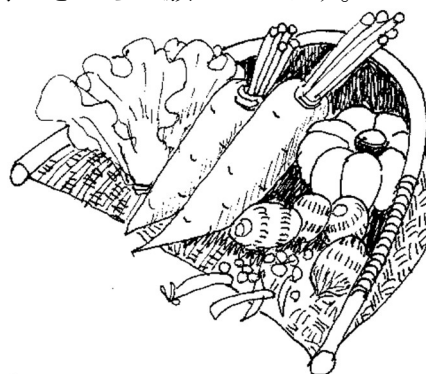
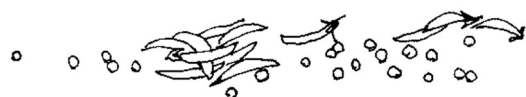
福岡自然農塾は今年で28年目となりました。組織や事務局があるわけではなく、年7回の見学学習会と数か所にある学びの場での実践を大きな柱として、中心スタッフ（現在は4名）が、そこで学ぶ人たちの指導やお世話をしている、というシンプルで最善の学びを続けています。

この27年間に本当にたくさんの方々が自然農を学びに来られ、各学びの場で、あるいは毎回学んだことを、それぞれの地に持ち帰って実践を重ね、農的暮らし（営農も含め）の実現に向けて取り組んでおられることと思います。

経済最優先の今日の社会においては、多くの矛盾と、解決しなければならないたくさんの課題をかかえています。しかし、まずは、各々の、自分自身の暮らしとあり様を問い直し、生命の営みは、本来、どういうところにあって、人は、その生命の世界の一員として、どう生きるべきか、その答えを出さないといけないでしょう。

今回は、福岡自然農塾に学びに来られた方々の中から、自然農を自らの暮らしの中心に据え、実践を続けておられる、4組の方々をお招きし、お話を伺う場を用意しました。

参加して下さる皆様と一体となって、よき学び合いの時を共有できたらと願っています。



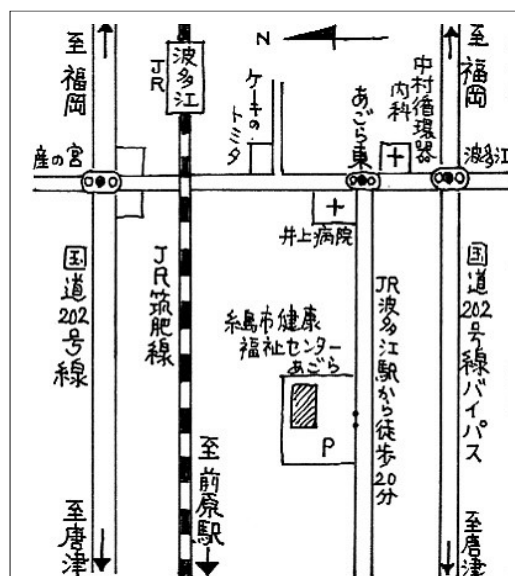
日時 2019年1月20日（日）
場所 糸島市健康福祉センター「あごら」視聴覚室（1F）

糸島市潤 1-22-1 ☎ 092-322-6262

定員 100名（要予約）
参加費 1000円 お昼の弁当はご持参下さい。

日程

9:30	受付
10:00	開始
	「自然農のある暮らしとその生き方を求めて」 発表と質疑応答 ①前田生敏 ②井手裕一・加奈子
12:00	昼食・休憩
13:00	発表と質疑応答 ③柴田浩之・卯(うさぎ) ④福崎貴之・祥子
15:00	休憩・お茶
15:30	全体でディスカッション
17:00	終了



予約・問い合わせ ☎ 090-7927-2726 (村山) ☎ 092-325-0745 (鏡山) ☎ 092-323-6606 (木下)

「地域とのかかわりと自然農」

前田 生敏 (51)

島根県津和野町在住



■プロフィール

- ・自然農歴 9年
- ・営農歴 7年

畑約5反、田約2反を1人で営んでいる。

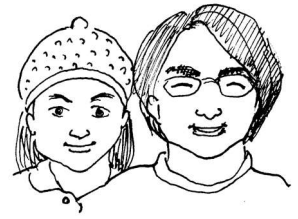
小麦、ライ麦、野菜など年間40~50種類を作付けしている。

山口市のわか屋、地元の手スーパーの地産地消コーナーに出荷しており、あとは個人宅配。兵庫県でサラリーマンをしていたが、自然農に出会い、仕事を辞める。10年前に1年間「赤目自然農塾」に通い、川口さんより、自然農の世界と田畑における術(すべ)を学ぶ。翌年、津和野で実践を始め、営農は7年目。

「しあわせ自然農」

井手 裕一 (34) 加奈子 (40)

福岡県糸島市在住



■プロフィール

- ・自然農歴 10年
- ・営農歴 6年

糸島市志摩野北で約7反の畑、3畝の田(目給用)を夫婦で営む。

2008年に福岡市内の会社を退職後、縁あって糸島市に移住。「松国学びの場」1年、「一貴山学びの場」6年在籍。2012年就農。現在の農地を開墾しながら営農開始。現在は、個人、飲食店に宅配セットを配達。直売所などで野菜、野菜加工品を販売。また、2014年に長女が生まれる。娘のいのちに日々向き合い、子育て奮闘中。

「中山間地の棚田と自然農がある暮らし」

柴田浩之(53)・卯(うさぎ)(55)

熊本県菊池市在住



■プロフィール

- ・自然農歴 6年

2014年、四街道自然農塾(千葉県)を経て九州に移住。

一貴山学びの場で学びを深め、3年目に現在の菊池市にて就農、居を構える。田1.8反。畑と果樹、約3.3反。筍やタラの芽、ワラビ、ゼンマイ等、山の幸にも恵まれる。お米は全て自給。

お野菜は田畑から、地域からの頂きもので、足りないもの、嗜好品は購入する暮らし。極力お金を使わない、とらわれない暮らし。土に還る暮らし。

テレビ、冷蔵庫、エアコンなどを使わず最小限の電力。

かまど、薪風呂や囲炉裏で火のある暮らし。

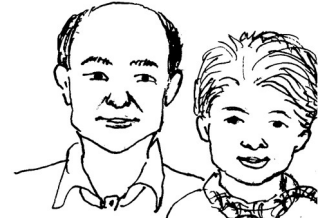
枯渇資源に極力依存しない、洗剤など環境を汚すものは使わない暮らし。標高300メートルの棚田は山々から流れる清流に恵まれ、鳥や虫の声を聞きながら土や風を感じながら日々生かされています。

「自然農を軸とした自給自足の暮らし」

一自然農で不安を安心に、不満を感謝に生きる一

福崎 貴之(71)・祥子(64)

鹿児島市在住



■プロフィール

- ・自然農歴 11年
- ・営農歴 7年(有機農時代)

1994年、父の介護を機に、現在の生家に帰郷し、慣行農業にて6年間、米や野菜を作り始める。2001年から7年間、有機農業にて小規模の営農を続けたが、今一つ「農業とは？」の点で疑問を感じていた。

この時期に「自然農栽培の手引き」に出会い、2008年から、全ての農機具を処分して、農的暮らしの根底に自然農を位置づけ、福岡の「自然農見学学習会」に通い、自然農を学ぶ。

2009年より年7回の「鹿児島自然農学びの会」を立ち上げ現在に至る。

田は1.2反。畑、2.2反、裏に1.6反の屋根山有り。